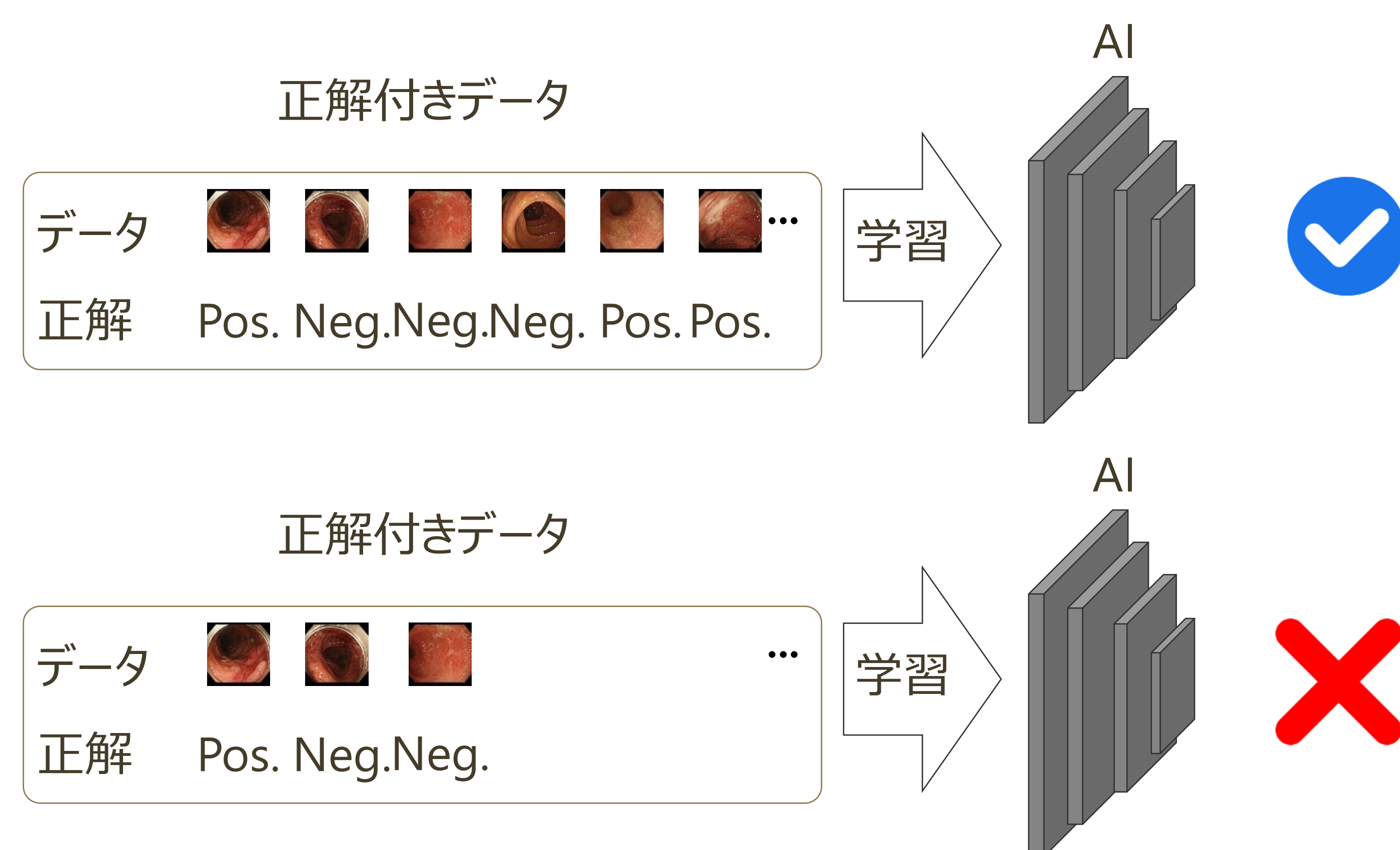


背景：AIの構築には多くの手間が必要

- AIを構築するには、正解付きデータを利用した学習が必要
- 一般的に数万枚の正解付きデータが必要とされている
- 正解付け作業のコストは高い
- 専門知識を伴う正解付け作業だと、数万枚規模のデータに正解を付けることは非現実的

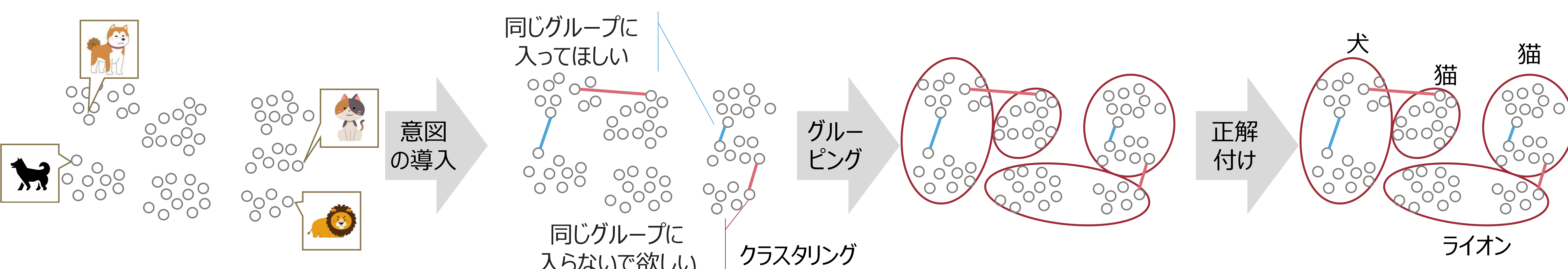


目的：AIを構築する手間の極小化

- 正解付けの効率化，人間の経験や知識の導入，公開されているデータセットを活用してAI構築の手間を削減

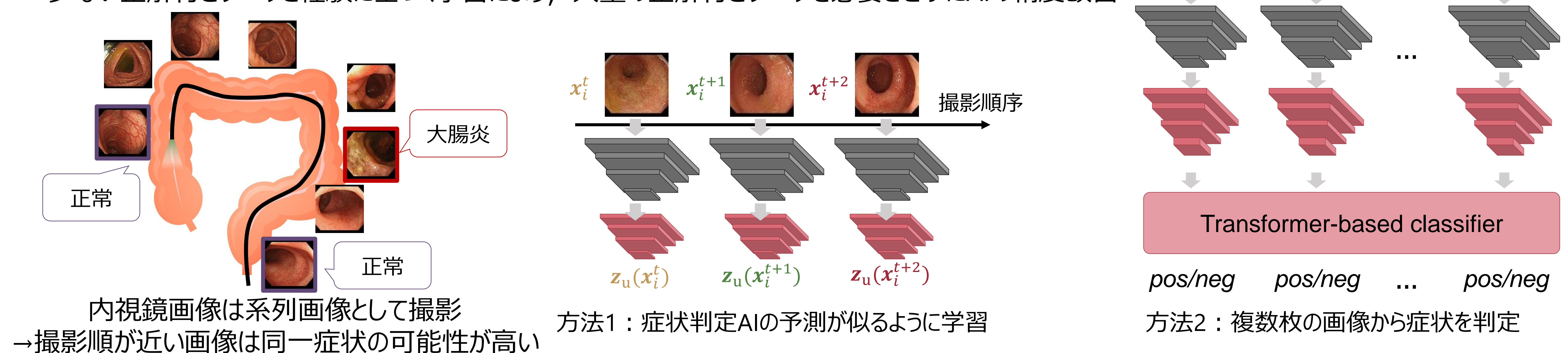
研究1：データセットを効率よく構築する技術

- 同じ正解を持つデータをグループ化できれば，それらに一括で正解付けが可能
- ユーザの意図・経験を反映できるクラスタリング（グルーピング）によりデータのグループ化



研究2：データの事前知識を活用してAIを学習

- 専門家の経験をAIの学習に導入
- 少ない正解付きデータと経験に基づく学習により，大量の正解付きデータを必要とせずにAIの精度改善

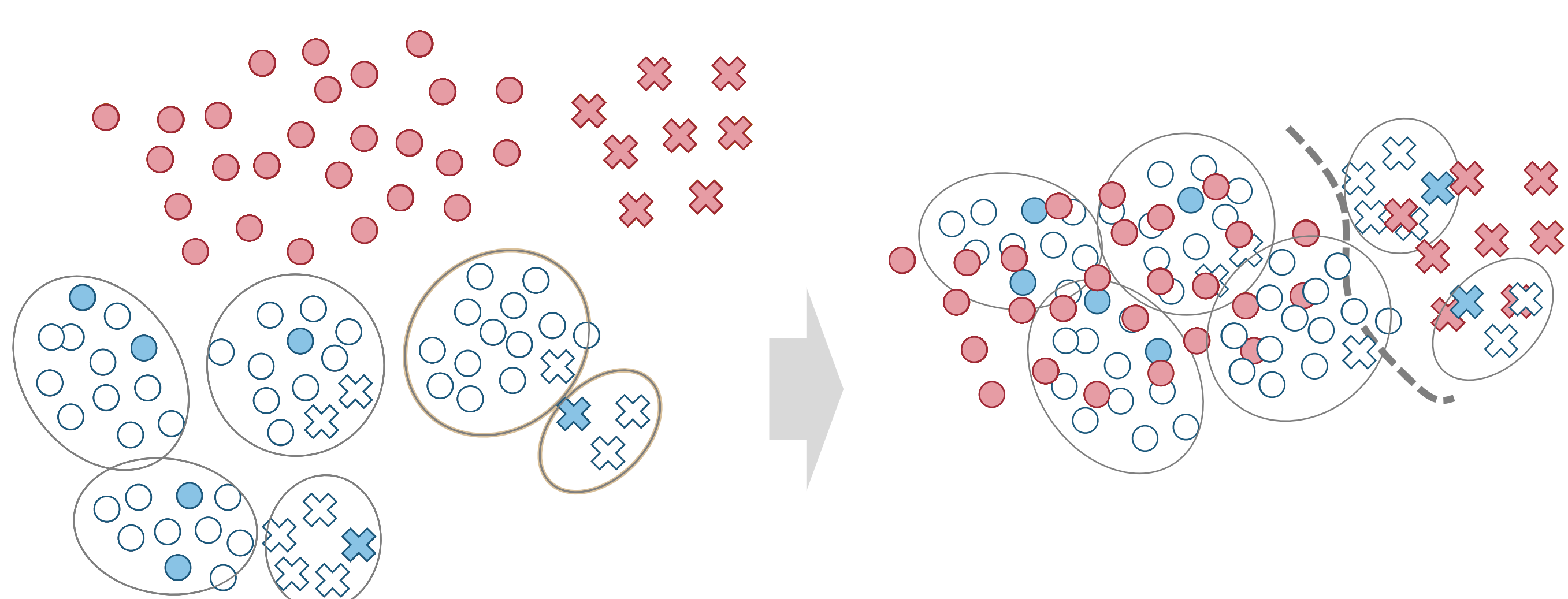


研究3：正解の付いたデータセットを利活用してAIを学習

- ドメイン適応：十分な正解が付いたデータセット（Source）から得られた知識を，正解の少ないデータセット（Target）に適応することでTargetにおいて高い精度を達成するAIを学習する方法

- Labeled source sample
- Labeled target sample
- Unlabeled target sample

クラスタリングを活用したドメイン適応



クラスの順序関係を活用したドメイン適応

